

土地改良記念碑探訪

有明町：野井倉甚兵衛翁公頌徳碑

野井倉開田は古く旧藩時代に計画されたもので、明治33年2月菱田川の水利権の認可を得て、原始的な粗朶堰を造り、約3町歩の水田が成った。

大正5年11月、これを石積堰堤に改造して野井倉1千町歩を水田化する計画が建てられた。しかし測量技術が幼稚なため測量に誤差を生じ水田化できたのは、わずか7町5反にすぎなかった。

大正10年、農水省の土地利用計画樹立に基づく実地測量の結果、導水路の工事が難工事の上多額の経費を要するとの理由で実施が無理との結論が下された。

昭和6年1月、組合員645名で野井倉耕地整理組合を設立して再開の努力が続けられることとなった。昭和10年7月から野井倉甚兵衛が組合長を引継ぎ、資金の調達と工事施工者の決定に苦心した。

昭和16年、農地開発営団の発足と同時に工事施工を決定、多年の懸案が解決した。

昭和17年1月、調査にかかり、水田520町歩、畑地100町歩の開墾計画で工事に着手したが、第2次世界大戦の最中で、極度の労働力不足のため県下青壮年及び学徒の奉仕を得て、開田及び区画整理を実施した。その延べ人数は23,400余名であった。

昭和19年、戦況の悪化に伴い野井倉原に海軍飛行場が設置されることになり、280町歩があてられたため、一時この事業は苦境に陥った。終戦と共に食糧問題解決のため政府は緊急開拓にとりあげ、全額国庫で施工することになった。

昭和22年9月、農地開発営団が閉鎖となり本事業は農林省直轄に切り替えられ、有利になったかに見えたが同年11月26日、進駐軍総司令部及び経済安定本部の調査の結果、本工事は莫大な資材と巨額の費用を要するとの理由で中止の命令を受けた。工事続行のため陳情その他手を尽くし、昭和23年6月までに通水し水稻を植え付けることを条件に工事続行の許可を得た。

昭和24年6月、天皇陛下のご巡幸を仰ぎ、野井倉甚兵衛夫婦の多年の労苦に対し親しくねぎらいの御言葉を賜った。

昭和25年6月5日、通水式を挙行、勢いよく流れる水路の中に「パッチョがさ」をかぶった野井倉甚兵衛がこぶねに乗りさっそうとトンネルから出てきた。周囲につめかけたたくさんの人々の間から「万歳 万歳」の大合唱が野井倉台地の隅々に響きわたった。

同年、11町5反歩を植付け、秋には初米を献上した。

○「有明町農業歴史資料館」には、野井倉開田・蓬原開田の資料や映像、実物の展示がされています。

◇ 参考文献：「蓬原・野井倉 開田のあゆみ」より抜粋

◇ 発行：有明町教育委員会

